

コーディネーターを中心に地域ボランティアの協力による 様々な学校支援活動

北海道登別市

活動名

登別市学校支援地域本部

関係する学校

市内全小中学校区（13校）

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携
	コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

平成20年度に登別市学校支援地域本部実行委員会を立ち上げ、ボランティア組織などで活発に活動している西陵中学校区をモデル校区として行い、事業の担い手である、コーディネーターを各中学校区に1名配置するとともに、学校の教育活動などの支援について協議する場として、平成23年度に「地域教育協議会」を設置するなど、教職員の負担軽減や学校現場の更なる充実、未来を担う子供たちを健やかに育むため、学校・家庭・地域の連携協力の下、各中学校区の実情に応じた取組を展開している。

特徴

【特徴的な活動内容】

市内小学校低学年を対象にした、地域の高齢者と交流を深める世代間交流事業を行う昔遊びなどを通して、地域の高齢者との交流を深めている。各中学校区での活動は、幌別中学校区では「ふれあい農園」や「音楽を聴く会」、鷺別中学校区では「昔の遊び体験」や「もちつき」、緑陽中学校区では「川遊び」や「スポーツチャンバラ」、西陵中学校区では「親子ふれあいまつり」、登別中では「さけの採卵体験」や「史跡めぐり」など、様々な活動を実施している。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターの役割分担や担当などを明確化し、研修会へ積極的に参加し、学校支援地域本部事業の取組の向上を図っている。各校区のコーディネーターが地域ボランティアを発掘することで、登録者数は年々増加している。

事業を実施して

地域全体で学校を支援することにより、教員が子供と向き合う時間の確保や、地域住民の知識・経験や生涯学習等の成果を発揮できる場の充実、さらには、地域と学校の連携協力が図られていると捉えている。

具体的な例として、富岸小学校や登別小学校で実施した「さけの稚魚の放流体験」では、地域のボランティアが率先して、富岸川や登別川の河川敷地内の草刈りを行い、児童の安全面に配慮していただくなど、学校への支援の充実や地域教育力の向上が図られている。

その他

小学生を対象に、こまやけん玉、竹割りなどの昔遊びを地域の方が先生になって学ぶ「世代間交流」や勉強の基礎基本を学ぶ「学びサポート」、長期休暇中に地域の方が講師となって勉強する「夏休み子ども塾」「冬休み子ども塾」を実施している。

平成22年度から、市内の中学校区（全小中学校）が学校支援地域本部事業を実施していること、コーディネーター研修会への積極的な参加やボランティアの協力を得ながら、新たな活動に取り組み続けている。

現在、実行委員会の組織は、実行委員長（教員経験者）、事務局長（幌別中学校区の代表）、監事2名（西陵中学校区の代表、緑陽中学校区の代表）、会計（教頭会の代表）の役員を置き、役員を含め委員は13名及びコーディネーター5名で構成されている。



田植の様子



花壇整備